

「一帯一路」共同建設のイニシアチブ  
進展、貢献と展望

2019

「一帯一路」建設事業推進指導グループ弁公室



外文出版社

2019年初版発行

ISBN 978-7-119-11977-9

©2019 中国 北京 外文出版社有限責任公司

外文出版社有限責任公司出版

中国北京百万莊大街24号

〒100037

<http://www.flp.com.cn>

中国国際図書貿易總公司発行

中国北京車公莊西路35号

〒100044

北京P.O.Box399

中華人民共和国にて印刷

# 目次

前書き .....	1
一、進展 .....	5
(一) 政策上の意思疎通 .....	5
(二) インフラの相互連結 .....	10
(三) 貿易の円滑化 .....	24
(四) 資金の融通 .....	28
(五) 民心のつながり .....	34
(六) 産業協力 .....	40
二、貢献 .....	44
(一) 共同協議：中国のイニシアチブから世界の共通 認識へ .....	44
(二) 共同建設：手を携えて調和のとれたふるさとを つくり上げる .....	49
(三) 共同享受：あらゆる参加者に真の恩恵を受けさ せる .....	52
(四) ビジョン：人類運命共同体を構築する .....	58

三、展望.....	63
(一) 平和の道.....	64
(二) 繁栄の道.....	67
(三) 開放の道.....	70
(四) グリーンな道.....	72
(五) 革新の道.....	74
(六) 文明の道.....	78
(七) 廉潔な道.....	80

## 前書き

2013年9月と10月、習近平中国国家主席はカザフスタンとインドネシアを訪問した際に、前後して「シルクロード経済ベルト」と「21世紀海上シルクロード」を共同で建設するという重要なイニシアチブを打ち出した。中国政府は「一帯一路」建設事業推進指導グループを発足させ、また中国国家発展・改革委員会に指導グループ弁公室を設立した。2015年3月、中国は『シルクロード経済ベルトと21世紀海上シルクロードの共同建設推進に関するビジョンと行動』を発表した。2017年5月、第1回「一帯一路」国際協力サミットフォーラムが北京で成功裏に開催され

た。また中国は前後してボアオ・アジアフォーラム年次総会、上海協力機構（SCO）青島サミット、中国・アフリカ協力フォーラム北京サミット、中国国際輸入博覧会などを開催した。ここ5年余りの間に、「一带一路」共同建設のイニシアチブはますます多くの国と国際機関の積極的な賛同を得ることとなり、国際社会に幅広く注目され、影響力が日増しに拡大つつある。

「一带一路」共同建設のイニシアチブは中国起源のものであるが、それにも増して世界に属するものであり、歴史に根付いたものであるが、それにも増して未来に向けてのものである。その重点はユーラシア大陸、アフリカ大陸に向けられたものであるが、それにも増してすべてのパートナーに開放されているものである。「一带一路」共同建設は国や地域の違い、発展段階の違い、歴史・

伝統の違い、文化・宗教の違い、風俗習慣の違いを乗り越えた、平和・発展、経済協力に関するイニシアチブであり、地政学的な政治同盟あるいは軍事同盟を結ぶことではない。開放・包容、共同发展の歩みであり、ドアを閉めて小さな縄張りや「中国クラブ」をつくることではない。イデオロギーによって境界線を引くことをせず、ゼロサムゲームをせず、各国に意向がありさえすれば、皆の参加を歓迎する。「一带一路」共同建設のイニシアチブは共同協議、共同建設、共同享受を原則とし、平和・協力、開放・包容、相互学習・相互参照、互惠・ウインウインというシルクロード精神を導きとし、政策上の意思疎通、インフラの相互連結、貿易の円滑化、資金の融通、民心のつながりを重点とし、すでに理念から行動へと転化し、ビジョンから現実へと転化し、イニシアチブから

世界で広く歓迎される公共財に転化している。

2018年8月、習近平主席は北京で「一帯一路」建設事業推進5周年座談会を主宰し、「一帯一路」建設は構想・配置の「大写意」から入念に描く「細密画」へと移り変わり、高品質の発展へと転換し、沿線諸国の人々に幸せをもたらし、人類運命共同体の構築を推進すべきだと述べた。

## 一、進展

2013年以降、「一帯一路」共同建設のイニシアチブは政策上の意思疎通、インフラの相互連結、貿易の円滑化、資金の融通、民心のつながりを主な内容として着実に推進され、顕著な効果を収め、一連のシンボリックな早期の成果が表れ、参加各国が確かな利益を得、「一帯一路」共同建設に対する共通認識と参与の度合いが絶えず増強されている。

### (一) 政策上の意思疎通

政策上の意思疎通は「一帯一路」共同建設の重要な保障であり、手を携えて共同建設を行う重要な先導である。この5年余りの間、中国は関

係国や国際機関と十分な意思疎通・調整を行い、「一带一路」共同建設という広範な国際協力の共通認識を形成した。

1. 「一带一路」共同建設のイニシアチブが国際機関の重要な文書に記載された。「一带一路」共同建設のイニシアチブおよびその核心となる理念が国際連合（UN）、主要 20 カ国・地域（G20）、アジア太平洋経済協力（APEC）およびその他の地域機関などの関係文書にすでに書き入れられている。2015 年 7 月、上海協力機構は『上海協力機構加盟国首脳のウファ宣言』を発表し、「シルクロード経済ベルト」建設に関するイニシアチブを支持した。2016 年 9 月、『G20 杭州サミット首脳コミュニケ』は「世界インフラ相互連結連盟」の設立に関する提案を採択した。2016 年 11 月、国連の 193 の加盟国は協議して全会一致で決議

を採択し、「一帯一路」共同建設などの経済協力のイニシアチブを歓迎し、国際社会が「一帯一路」建設に安全保障環境を提供するよう呼びかけた。2017年3月、国連安全保障理事会は第2344号決議を全会一致で採択し、国際社会が「一帯一路」建設を通じて地域経済協力を強化するよう呼びかけ、さらに「人類運命共同体」という理念を初めて同決議に記載した。2018年、中国・ラテンアメリカカリブ諸国共同体（CELAC）フォーラム第2回閣僚級会議、中国・アラブ諸国協力フォーラム第8回閣僚級会議、中国・アフリカ協力フォーラムサミットが前後して開催され、それぞれ中国・CELAC『「一帯一路」イニシアチブに関する特別声明』、『中国・アラブ諸国の「一帯一路」連携共同建設に関する行動宣言』や『より緊密な中国・アフリカ運命共同体の構築に関する北

京宣言』など重要な成果文書を形成した。

2. 「一帯一路」共同建設における政府間協力合意書に調印する国と国際機関の数が年々増加している。「一帯一路」共同建設の枠組みの下、各参加国と国際機関は小異を残して大同を求めるという原則にのっとり、経済発展の計画と政策について十分な交流を行い、話し合っ経済協力の計画と措置を制定する。2019年3月末までに、中国政府はすでに125カ国、29の国際機関と173件の協力合意書に調印した。「一帯一路」共同建設の参加国はすでにユーラシアからアフリカ、ラテンアメリカ、南太平洋などの地域にまで延びた。

3. 「一帯一路」共同建設における専門分野のマッチング・協力が秩序正しく推進されている。デジタル・シルクロード建設はすでに「一帯一路」

共同建設の重要な構成部分となっており、中国はエジプト、ラオス、サウジアラビア、セルビア、タイ、トルコ、アラブ首長国連邦などの国と『「一帯一路」デジタル経済国際協力イニシアチブ』を共同で発起し、16カ国とデジタル・シルクロード建設の強化に関する協力合意書に調印した。中国は『標準化連結の「一帯一路」共同建設行動計画（2018～2020年）』を発表し、49カ国・地域と85件の標準化協力協定書に調印した。「一帯一路」税収協力において長期的に有効なメカニズムが日増しに整い、中国は「一帯一路」税収協力会議を招集し、『アスタナ「一帯一路」税収協力イニシアチブ』を発表し、税収協定の協力ネットワークが111カ国・地域にまで広がった。中国と沿線49カ国は『「一帯一路」国家知的財産権実務協力のさらなる推進に関する共同声明』を

共同発表した。中国は「一帯一路」法治協力国際フォーラムを開催し、『「一帯一路」法治協力国際フォーラム共同議長声明』を発表した。中国は「一帯一路」エネルギー閣僚会議を開催し、18カ国が「一帯一路」エネルギー協力パートナーシップの構築を共同宣言した。中国は『「一帯一路」建設農業協力の共同推進に関するビジョンと行動』や『「一帯一路」建設海上協力構想』などを発表した。中国は国際商事法廷と国際商事紛争における「ワンストップ」の多元的解決メカニズムの構築を推し進めた。

## (二) インフラの相互連結

インフラの相互連結は「一帯一路」共同建設において優先的に取り組む分野である。関係国の主権と安全保障上の関心事を尊重したうえで、各国の共同努力によって、鉄道、道路、水上運輸、航空、

パイプライン、空間総合情報ネットワークなどを核心とする全方位的で多層的な、多機能型のインフラネットワークが速いスピードで整備され、地域間の商品、資金、情報、技術などの取引コストが大幅に下がり、地域にまたがる資源・要素の秩序ある移動と最適な配分を効果的に促進し、互惠・協力、ウインウイン・発展を実現した。

1. 国際経済協力回廊と通路の整備が明らかな進展を見せている。新ユーラシア・ランドブリッジ、中国・モンゴル・ロシア、中国・中央アジア・西アジア、中国・中南半島（インドシナ半島）、中国・パキスタン、バングラデシュ・中国・インド・ミャンマーといった六つの国際経済協力回廊はアジア経済圏と欧州経済圏とを結びつけ、各国の相互連結パートナーシップの構築と強化、高効率で円滑なユーラシア大市場の構築のために重要

な役割を果たしている。

——ユーラシア横断鉄道経済回廊。この5年余りの間に、ユーラシア横断鉄道経済回廊における地域協力は日増しに深まり、開放・包容、互惠・ウィンウインのパートナーシップを新たなレベルに引き上げ、アジアと欧州の両大陸の経済貿易交流を大いに推進してきた。『中国・中東欧諸国協カブダベスト要綱』と『中国・中東欧諸国協カソフィア要綱』が世界に向けて発表され、中国・欧州連合（EU）相互連結プラットフォームと欧州投資計画の枠組みの下の実務協力が秩序正しく推進されている。ハンガリー・セルビア鉄道のセルビア国内、ベオグラードースタラ・パドヴァ区間が着工した。中国西部・西欧国際道路（中国西部—カザフスタン—ロシア—西欧）がほぼ竣工した。

——中国・モンゴル・ロシア経済回廊。中国、

モンゴル、ロシアの三カ国は鉄道、道路、国境ゲートを中心とする越境インフラ連結ネットワークの形成を積極的に推進している。2018年、三カ国は『中国・モンゴル・ロシア経済回廊連携推進メカニズムの構築に関する了解覚書』に調印し、三カ国協力の作業メカニズムをさらに整備した。2018年10月、中国の同江とロシアのニジュネレニンスコエを結ぶ国境の川の鉄道橋梁の中国側プロジェクトが竣工した。黒河とブラゴヴェシチェンスクを結ぶ国境の川の道路橋の建設が順調に進んでいる。中ロ企業連合体はモスクワ・カザン高速鉄道プロジェクトの基本設計をほぼ終えた。三カ国が調印し、認可した『アジア道路網沿いの国際道路運送に関する政府間協定』が正式に効力を生ずる。中国・モンゴル・ロシア（エレンホト〈二連浩特〉）の越境陸上光ケーブルシステムが

すでに開通した。

——中国・中央アジア・西アジア経済回廊。

この5年余りの間、同回廊はエネルギー、インフラの相互連結、経済貿易や生産能力などの分野における協力が絶えず深まっている。中国とカザフスタン、ウズベキスタン、トルコなどの国との国際道路運送二国間協定および中国・パキスタン・カザフスタン・キルギス、中国・カザフスタン・ロシア、中国・キルギス・ウズベキスタンなどの国際道路運送多国間合意書または協定が相次いで調印され、中央アジア、西アジア地域のインフラが絶えず改善されている。中国・サウジアラビア投資協力フォーラムは「一帯一路」共同建設のイニシアチブとサウジアラビアの「ビジョン2030」を中心に据えて産業のマッチングを行い、総価値280億ドル以上の協力合意書に調印した。

中国とイランは各分野における独自の優位性を生かし、道路、インフラ、エネルギーなどの分野を網羅したマッチング協力を強化している。

——中国・中南半島経済回廊。この5年余りの間に、同回廊はインフラの相互連結、越境経済協力エリア建設などの面において好ましい進展を遂げた。昆明とバンコクを結ぶ道路が全線開通し、中国・ラオス鉄道、中国・タイ鉄道などのプロジェクトが着実に推進されている。中国・ラオス経済回廊の共同建設が開始され、タイの「東部経済回廊」と「一帯一路」イニシアチブとのマッチングが加速され、中国とカンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム・タイ（CLMVT）との経済協力が着実に推進されている。中国・東南アジア諸国連合（ASEAN）（10 + 1）協力メカニズム、らんそうこう 瀾滄江・メコン川協力メカニズム、大メコン圏地

域（GMS）経済協力が果たす積極的な役割がますます顕著になっている。

——中国・パキスタン経済回廊。エネルギー、交通インフラ、産業パーク、グワダル港を重点とする協力の配置が確定され、実施されている。中国とパキスタンは中国・パキスタン経済回廊連携活動委員会を立ち上げ、定期会合メカニズムをつくり上げた。一連のプロジェクトは順調に進められ、グワダル港に通じるアクセス道路、ペシャーワルとカラチを結ぶ高速道路（サッカル・ムルターン区間）、カラコルム道路のグレードアップ改良2期工事（ハヴェリアン・ターコット区間）、ラホール都市軌道交通オレンジライン、カーシム港の1320メガワットの発電所など重点プロジェクトが着工され、一部のプロジェクトはすでに効果と利益が出ている。中国・パキスタン経済回廊

は第三国協力を始めており、より多くの国がすでにそれに参加し、あるいは参加する意向を持っている。

——**バングラデシュ・中国・インド・ミャンマー経済回廊**。この5年余りの間、バングラデシュ、中国、インド、ミャンマー四カ国は連携活動チームの枠組みの下で回廊建設を共同で推進し、メカニズムと制度の構築、インフラの相互連結、貿易と産業パークにおける協力、国際金融における開放・協力、人的・文化的交流、民生における協力などの面において一連の重点プロジェクトを検討し計画した。中国とミャンマー両国は中国・ミャンマー経済回廊連携委員会を共同で設立し、中国・ミャンマー経済回廊の共同建設に関する了解覚書、ムセ・マンダレー鉄道プロジェクトの実行可能性調査文書とチャウピュー経済特区深海港プ

プロジェクト建設に関する枠組み協定に調印した。

2. インフラの相互連結のレベルが大幅に向上した。「道路が整備されれば、さまざまな産業が盛んになる」という。インフラへの投資不足は発展途上国の経済成長のボトルネックであり、インフラの相互連結の建設を加速することは「一帯一路」共同建設のカギとなる分野であり中心となる内容である。

——**鉄道協力の面**。中国・ラオス鉄道、中国・タイ鉄道、ハンガリー・セルビア鉄道、ジャカルタ・バンドン高速鉄道などの協力プロジェクトを重点とする地域間、大陸間鉄道ネットワークの構築が重要で大きな進展を遂げている。アジア横断鉄道(TAR)の東線、パキスタン1号鉄道幹線のグレードアップ改良、中国・キルギス・ウズベキスタン鉄道などのプロジェクトは事前研究を積極

的に推進しており、中国・ネパール間越境鉄道はすでに実行可能性調査を終えた。「中欧班列(チャイナ・レールウェー・エクスプレス)」は多国間協力の国際定期貨物列車の運行の仕組みを模索してほぼつくり上げた。中国、ベラルーシ、ドイツ、カザフスタン、モンゴル、ポーランド、ロシアの7カ国の鉄道会社は『「中欧班列」協力深化に関する協定』に調印した。2018年末までに、「中欧班列」はすでにユーラシア大陸16カ国の108都市を結び、累計1万3000便を運行し、110万TEU以上の貨物を輸送した。中国発の定期貨物列車の積載率は94%に達し、中国着の定期貨物列車の積載率は71%に達している。沿線諸国と通関手続きにおける調整・協力を行い、通関の利便性を高め、平均検査率と通関時間が50%減少した。

——道路協力の面。中国・モンゴル・ロシア、中国・キルギス・ウズベキスタン、中国・ロシア（大連—ノボシビルスク）、中国・ベトナムの国際道路直通運送試運転活動が前後して成功裏に行われた。2018年2月、中国・キルギス・ウズベキスタン国際道路での運送は常態化運行を実現した。中国・ベトナム北侖河道路2橋が竣工し開通した。中国は『国際道路運送手帳による担保の下で行う貨物の国際運送に関する通関条約（TIR条約）』に正式に加入した。中国は沿線15カ国と『上海協力機構加盟国の国際道路運送に関する政府間円滑化協定』を含む18の二国間、多国間国際運送円滑化協定に調印した。『大メコン圏地域における貨物の越境輸送および人の越境移動の円滑化協定（越境輸送協定、CBTA）』が実施され、好ましい進展を見せている。

——**港湾協力の面。**パキスタンのグワダル港は定期コンテナ航路を開設し、航路の出発エリアの付属施設がすでに竣工し、企業 30 余社がそこに拠点を構えている。スリランカのハンバントタ港経済特別区はすでに工業パークの産業的位置づけやコンセプトの計画など事前業務を終えた。ギリシャのピレウス港は重要な中継ハブ港をつくり上げ、3 期港湾建設が間もなく竣工する。アラブ首長国連邦のハリファ港の第 2 期コンテナ埠頭は 2018 年 12 月に正式開港した。中国は沿線 47 カ国と 38 の海運に関する二国間協定や地域協定に調印した。中国寧波航運交易所は「海上シルクロード海運指数」を絶えず改善し、中国・中東欧「16 + 1」貿易指数と寧波港湾指数を発表した。

——**航空輸送の面。**中国は 126 カ国・地域と

二国間の航空輸送に関する政府間協定に調印している。ルクセンブルグ、ロシア、アルメニア、インドネシア、カンボジア、バングラデシュ、イスラエル、モンゴル、マレーシア、エジプトなどの国と運輸権（トラフィック・ライト）を拡大した。この5年余りの間に、中国は沿線諸国と1239路線の国際航路を新規開設し、新たに開設された国際航路総数の69.1%を占めている。

——**エネルギー施設整備の面。**中国は沿線諸国と一連の協力枠組み協定や了解覚書に調印し、電力、石油・天然ガス、原子力発電、新エネルギー、石炭などの分野において幅広い協力を展開し、関係国と石油・天然ガス輸送パイプライン網の安全な運営を共同で維持管理し、国家間、地域間におけるエネルギー・資源の最適な配分を促進している。中国・ロシア原油パイプライン、中

国・中央アジア天然ガスパイプラインは安定した運営を保っており、中国・ロシア天然ガスパイプライン東線は2019年12月に一部が稼働を開始し、2024年に全線が稼働する。中国・ミャンマー石油・天然ガスパイプラインが全線開通した。

——**通信施設整備の面**。中国・ミャンマー、中国・パキスタン、中国・キルギス、中国・ロシアの越境光ケーブル情報通路の整備は明らかな進展を遂げている。中国と国際電気通信連合 (ITU) は『「一帯一路」の枠組みの下で電気通信と情報ネットワーク分野の協力を強化することに関する基本合意書』に調印した。キルギス、タジキスタン、アフガニスタンとシルクロード光ケーブル協力協定に調印し、シルクロード光ケーブルプロジェクトが実際に始動した。

### (三) 貿易の円滑化

貿易の円滑化は「一帯一路」共同建設の重要な内容である。「一帯一路」共同建設は沿線諸国と地域の貿易・投資の自由化と円滑化を促進し、取引コストとビジネスコストを下げ、発展の潜在力を活性化させ、各国が経済のグローバル化により広く、より深く関わるようになった。

1. 貿易・投資の自由化と円滑化のレベルが絶えず向上している。中国は『「一帯一路」貿易円滑化推進協力イニシアチブ』を呼びかけ、83の国と国際機関が積極的にそれに参加している。税関の検査・検疫における協力が絶えず深まり、2017年5月第1回「一帯一路」国際協力サミットフォーラム以降、中国と沿線諸国は100件余りの協力文書に調印し、50種余りの農産物・食品の検疫参入許可が実現した。中国とカザフス

タン、キルギス、タジキスタンとの農産物快速通関「グリーンゲート」建設が積極的に推進され、農産物の通関時間が90%短縮された。中国は外資の参入分野をさらに緩和し、高水準の国際ビジネス環境をつくり上げ、世界に向けて開放された12カ所の自由貿易試験区を設立し、また自由貿易港の建設を模索して沿線諸国の中国での投資を誘致する。中国の平均関税率は世界貿易機関(WTO)加盟当時の15.3%から現在の7.5%にまで下がった。中国はASEAN、シンガポール、パキスタン、グルジアなど多くの国や地域と自由貿易協定に調印し、またはそれをグレードアップさせ、ユーラシア経済連合(EEU)と経済貿易協力協定に調印し、沿線諸国との自由貿易区ネットワークシステムが逐次形作られている。

2. 貿易規模が引き続き拡大している。2013年

から 2018 年にかけて、中国と沿線諸国との商品貿易の輸出入総額は 6 兆ドルを超え、年平均伸び率は同期の中国の対外貿易の伸びより高く、中国の商品貿易総額の 27.4%を占めている。そのうち、2018 年、中国と沿線諸国との商品貿易の輸出入総額は 1 兆 3000 億ドルに達し、前年同期比で 16.4%増加した。中国と沿線諸国とのサービス貿易は小から大へと着実に発展している。2017 年、中国と沿線諸国とのサービス貿易の輸出入総額は 977 億 6000 万ドルに達し、前年同期比で 18.4%増加し、中国のサービス貿易総額の 14.1%を占めており、2016 年より 1.6 ポイント向上した。世界銀行の研究チームは 71 の潜在的加盟候補国の貿易に対する「一带一路」共同建設のイニシアチブの影響について分析し、「一带一路」共同建設のイニシアチブは参加国間の貿易

取引を 4.1%増加させることを発見した。<sup>1</sup>

**3. 貿易方式刷新の歩みが加速している。**越境電子商取引などの新業態、新モデルは貿易の円滑化を推進する重要な新たな力となっている。2018年、中国税関越境電子商取引管理プラットフォーム経由の小売輸出入商品総額は前年同期比 50%増の 203 億ドルに達し、そのうち輸出は前年同期比 67.0%増の 84 億 8000 万ドルで、輸入は前年同期比 39.8%増の 118 億 7000 万ドルだった。「シルクロード電子商取引」協力が大いに進み、中国は 17 カ国と二国間電子商取引協力メカニズムを構築し、新興 5 カ国（BRICS）など多国間メカニズムの下で電子商取引協力文書を形成し、

---

1 Suprabha Baniya, Nadia Rocha, Michele Ruta. Trade Effects of the New Silk Road: A Gravity Analysis. WORLD BANK Policy Research Working Paper 8694, January 2019.

企業間のマッチングとブランド育成の確かな足取りを加速している。

#### (四) 資金の融通

資金の融通は「一帯一路」共同建設の重要な支えである。多国間金融機関およびさまざまな商業銀行は投融資モデルの刷新を絶えず模索し、多様な融資ルートを積極的に開拓し、「一帯一路」共同建設のために安定した、透明な、高品質の資金サポートを提供している。

1. 新たな海外投融資モデルを模索している。「一帯一路」沿線のインフラ整備と生産能力協力の潜在力は巨大で、資金不足を早急に補われなければならない。各国のソブリン・ウェルス・ファンド (SWF) と投資ファンドがますます重要な役割を果たすようになっている。近年、沿線諸国の主要な新興経済国に対するアラブ首長国連邦のアブダ

ビ投資庁や中国投資有限責任公司などの SWF の投資規模が著しく拡大している。シルクロード基金と欧州投資基金（EIF）の共同出資で設立された中欧共同投資基金が 2018 年 7 月より実際の運用を始め、投資規模は 5 億ユーロで、「一带一路」共同建設のイニシアチブと欧州投資計画とのマッチングを力強く促進している。

2. 多国間金融協力の支え手としての役割が現れている。中国財政部（財務省）とアルゼンチン、ロシア、インドネシア、英国、シンガポールなど 27 カ国の財務省は『「一带一路」融資指導原則』を承認した。この指導原則にのっとり、各国は関係国と地域の実体経済の発展に金融サービスを提供することを支持し、インフラの相互連結、貿易投資、生産能力協力などの分野に対する融資サポートを重点として強化する。中国人民銀行は世

界銀行グループ傘下の国際金融公社（IFC）、米州開発銀行（IDB）、アフリカ開発銀行（AFDB）や欧州復興開発銀行（EBRD）などの多国間開発機関と合同融資を展開し、2018年末までにすでに累計100余りのプロジェクトに投資し、70余りの国・地域をカバーしている。2017年11月、中国・中東欧銀行連合体が発足し、そのメンバーには中国、ハンガリー、チェコ、スロバキア、クロアチアなど14カ国の金融機関が含まれている。2018年7月と9月に、中国・アラブ諸国銀行連合体と中国・アフリカ金融協力銀行連合体が発足し、中国とアラブ諸国、アフリカ諸国との間の初めての多国間金融協力メカニズムが構築された。

**3. 金融機関の協カレベルが絶えず引き上げられている。「一帯一路」共同建設において、政府系輸出信用保険はカバー範囲が広く、インフラや**

基幹産業の整備を支援するうえで独自の役割を果たしている。商業銀行は預金、企業融資、金融商品、貿易代理や信託など多様化の面において優位性がある。2018年末時点で、中国輸出信用保険会社の沿線諸国向け輸出、投資への支援規模は累計6000億ドルを超えた。中国銀行、中国工商銀行、中国農業銀行、中国建設銀行など中国資本の銀行は沿線諸国と幅広いコルレス契約を結んでいる。コメルツ銀行は中国工商銀行と協力了解覚書に調印し、「一带一路」銀行協力常態化メカニズムに加入した最初のドイツの銀行となった。

**4. 金融市場システムの整備が日増しに完全なものになっている。**沿線諸国は長期的に安定した、互惠・ウインウインの金融協力関係を絶えず深化させ、各種の革新的な金融商品を絶えず打ち出し、「一带一路」共同建設の融資チャンネルを大いに

広げた。中国は銀行間債券市場の対外開放を絶えず進め、2018年末までに、パンダ債の発行規模がすでに2000億元前後に達した。中国輸出入銀行は世界の投資家を対象に20億元の人民元建て「債券通（Bond Connect）」グリーン金融債券を発行し、新開発銀行（BRICS銀行）は30億元の人民元建てグリーン金融債券を初めて発行して、グリーンなシルクロードの建設を支援する。証券先物取引所間の株式、業務と技術協力は着実に進んでいる。2015年、上海証券取引所、ドイツ取引所株式会社、中国金融先物取引所は共同出資で中欧国際取引所を設立した。上海証券取引所とカザフスタンのアスタナ国際金融センター（AIFC）管理局は協力合意書に調印し、共同出資でアスタナ国際取引所を設立する。

##### 5. 金融の相互連結が絶えず深化している。中

国資本の銀行 11 行が沿線 28 カ国で 76 の 1 級支店（主要都市における大規模支店）を設立し、沿線 22 カ国の銀行 50 行が中国で銀行法人 7 行、19 の外国銀行支店と 34 の代表処を設立している。中国資本の証券会社 2 社がシンガポールとラオスで合弁会社を設立している。中国は前後して沿線 20 余カ国と二国間通貨スワップ協定を結び、沿線 7 カ国と人民元建て決済協定を結び、沿線 35 カ国の金融監督当局と協力文書に調印した。人民元の国際決済、投資、取引、準備通貨としての機能は着実に向上しており、人民元越境決済システム（CIPS）の業務範囲がすでに 40 近くの沿線国・地域をカバーしている。中国・国際通貨基金（IMF）能力開発センター、「一带一路」財政経済発展研究センターが正式に発足した。

## (五) 民心のつながり

民心のつながりは「一帯一路」共同建設の人的・文化的基盤である。平和、安寧、裕福を享受し、より素晴らしい暮らしを送ることは各国の人々の共通の夢である。この5年余りの間、各国は多種多様で幅広いパブリック・ディプロマシーや文化交流を行い、相互理解と共感を増進し、「一帯一路」共同建設のために堅固な民意の基盤を築いてきた。

1. **文化交流の形式が多様である。** 中国と沿線諸国は芸術祭、映画祭、音楽祭、文化財展覧会、図書展覧会などのイベントを互いに開催し、図書・ラジオ・テレビ・映画の優れた作品の創作と相互翻訳・相互放送を共同で行う。シルクロード国際劇場、博物館、芸術祭、図書館、美術館連盟が相次いで発足した。中国は中東欧、ASEAN、ロシア、

ネパール、ギリシャ、エジプト、南アフリカなどの国や地域と「文化年」活動を共同で開催し、「シルクロードの旅」や「中国・アフリカ文化にズームイン」など十数の文化交流のブランドを作り、シルクロード（敦煌）国際文化博覧会、シルクロード国際芸術祭や海上シルクロード国際芸術祭など一連の大型文化祭・博覧会を実施し、沿線諸国に17カ所の中国文化センターを設立した。中国はインドネシア、ミャンマー、セルビア、シンガポール、サウジアラビアなどの国と文化遺産協作文書に調印した。中国、カザフスタンとキルギスが共同申請した「シルクロード：長安—天山回廊の交易路網」は世界遺産登録に成功した。「一带一路」メディア協力連盟の構築は積極的に推進されている。シルクロード沿線民間組織協力ネットワークのメンバーはすでに310に達し、民間友

好協力を推進するための重要なプラットフォームとなっている。

**2. 教育研修の成果が豊かである。** 中国は「シルクロード」中国政府奨学金プロジェクトを設立し、沿線 24 カ国と大学学歴・学位の相互承認合意書に調印した。2017 年沿線諸国の 3 万 8700 人が中国政府奨学金を受け取り中国に留学し、奨学金受給学生の総数の 66.0% を占めている。香港、澳門（マカオ）特別行政区はそれぞれ「一带一路」共同建設関連奨学金を設立した。沿線 54 カ国に 153 カ所の孔子学院を設け、149 カ所の孔子課堂（教室）を設けている。中国科学院は沿線諸国で修士、博士奨学金や科学技術研修クラスを設立し、すでに延べ 5000 人を育成した。

**3. 観光協力が逐次拡大している。** 中国は多くの国と観光年を共同で開催し、シルクロード観光マ

一ケティンク連盟、海上シルクロード観光普及連盟、「万里茶道」国際観光連盟などの観光協力メカニズムを創設した。沿線 57 カ国と異なる種類のパスポートを含む査証相互免除協定を締結し、15 カ国と 19 件の査証手続き簡素化協定または合意を結んでいる。2018 年、中国の海外旅行者数は延べ 1 億 5000 万人に達し、訪中外国人旅行者数は延べ 3054 万人に達し、ロシア、ミャンマー、ベトナム、モンゴル、マレーシア、フィリピンやシンガポールなどの国は中国の主な観光客源市場となっている。

#### 4. 医療衛生・健康協力が絶えず深化している。

第 1 回「一带一路」国際協力サミットフォーラムが開催されて以降、中国はモンゴルやアフガニスタンなどの国、世界保健機関（WHO）などの国際機関、ビル&メリンダ・ゲイツ財団などの非

政府組織と相次いで56の医療衛生・健康協力推進合意書に調印した。2017年8月、「一带一路」ならびに健康シルクロード・ハイレベルシンポジウムが北京で開催され、『北京コミュニケ』を発表した。中国は瀾滄江—メコン川の流域諸国とエイズ、マラリア、デング熱、インフルエンザや結核症などの予防・制御に関する協力を展開し、中央アジア諸国とエキノコックス症やペストなど人獣共通感染症の予防・制御についての協力を展開し、西アジア諸国とポリオ（急性灰白髄炎・小児麻痺）などの予防・制御に関する協力を展開している。中国は前後して多くの眼科医療チームを派遣し、カンボジア、ミャンマー、ラオス、スリランカなどの国に赴かせ「光明行」という無償の眼科医療活動を行い、短期医療チームを派遣し、フィジー、トンガ、ミクロネシア、バヌアツなど太

平洋上の島国に赴かせ「島への医療サービス」活動を行った。沿線 35 カ国で中国医薬海外センターを設立し、43 カ所の中国医薬国際協力基地を建設した。

**5. 災害救援・援助と貧困者扶助が引き続き推進されている。** 第 1 回「一帯一路」国際協力サミットフォーラム以来、中国は沿線の発展途上国に 20 億元の緊急食糧援助を提供し、南南協力援助基金に 10 億ドルを増資し、沿線諸国で「幸福家園（幸せな家）」100 カ所、「愛心助困（愛を込めた貧困者扶助）」100 カ所、「康復助医（リハビリと医療援助）」100 カ所などのプロジェクトを実施している。海外の文化財の共同保護支援と国際合同考古学調査を展開し、6 カ国と八つの海外の文化財保護支援協力プロジェクトを展開し、12 カ国と 15 の合同考古学プロジェクトを展開

した。中国はラオスなどの国に地震監視装置・設備を提供し、地震防災・減災の能力を向上させる。中国はカンボジア、ネパールで24の社会組織協力プロジェクトを展開し、現地民衆の暮らしを改善するのに助力している。

## (六) 産業協力

「一帯一路」共同建設は多種多様な投資の展開を支援し、第三国市場における協力を奨励し、皆に恩恵をもたらす発展、発展を享受する産業チェーン、サプライチェーン、サービスチェーン、バリューチェーンの形成を推進し、沿線諸国の発展を加速させるために新たなエネルギーを提供している。

1. 沿線諸国への中国の直接投資が穏やかに増加している。2013年から2018年にかけて、沿線諸国への中国企業の直接投資は900億ドル

を超え、沿線諸国での国際工事請負の売上高は4000億ドルを超えた。2018年、沿線諸国への中国企業の非金融類直接投資は156億ドルを実現し、前年同期比で8.9%増加し、同期の総額の13.0%を占めた。沿線諸国の国際工事請負の売上高は893億ドルに達し、同期の総額の53.0%を占めた。世界銀行の研究が示しているように、沿線諸国の外商直接投資総額は4.97%増加し、そのうち、沿線諸国内部からの外商直接投資は4.36%増加し、経済協力開発機構（OECD）加盟国からの外商直接投資は4.63%増加し、非沿線国からの外商直接投資は5.75%増加する見込みである。<sup>2</sup>

---

2 Maggie Xiaoyang Chen, Chuanhao Lin. Foreign Investment across the Belt and Road Patterns, Determinants and Effects. WORLD BANK Policy Research Working Paper 8607, October 2018.

2. 国際生産能力協力と第三国市場協力が着実に推進されている。沿線諸国の急速な成長が国際生産能力協力の巨大な市場需要を生み出し、中国はそれに積極的に応え、関係国と市場化された全方位的な生産能力協力を推進し、沿線諸国が産業構造の高度化と産業発展のレベルアップを実現させるのを促進している。現在、中国はすでにカザフスタン、エジプト、エチオピア、ブラジルなどの40カ国以上の国と生産能力協力文書に調印し、ASEAN、アフリカ連合（AU）、CELACなどの地域組織と協力やマッチングを行い、メカニズム化された生産能力協力を展開している。中国はフランス、イタリア、スペイン、日本、ポルトガルなどの国と第三国市場協力文書に調印した。

3. 協力産業パークが盛んに発展している。中国の各種企業は市場化と法治化という原則に従っ

て沿線諸国に自主的に赴き協力産業パークを共に建設し、これらの国々が、改革開放以降、各種の開発区や産業パークによって経済成長を実現させた中国の経験と方法を参考にするように推進し、現地の経済成長を促進し、沿線諸国のために新たな税源と雇用の道をつくり出した。それと同時に、中国はまたカザフスタン、ラオスとそれぞれ中国・カザフスタンコルガス国際国境協力センター、中国・ラオス<sup>モーハン</sup>磨憨一ボーテン経済協力区など越境経済協力区を設立し、他の国と提携して越境経済協力区を建設する事業も着実に推進している。

## 二、貢献

「一帯一路」共同建設のイニシアチブは人類運命共同体の構築に着目し、共同協議・共同建設・共同享受の原則を堅持し、グローバルガバナンス体系の変革と経済のグローバル化の推進に中国の貢献を行っている。

### (一) 共同協議：中国のイニシアチブから世界の共通認識へ

共同協議とはつまり「みんなの事はみんなで相談して行う」ということであり、平等な参加と十分な協議を強調し、平等と自由意志を基礎とし、十分な対話・意思疎通を通じて認識の共通点、参加・協力の合流点、共同発展の注力点を探すとい

うことである。

——共同協議の国際化プラットフォームと媒体を構築する。2017年5月、第1回「一带一路」国際協力サミットフォーラムが北京で成功裏に開催され、29カ国の元首と政府首脳がフォーラムに出席し、140余りの国と80余りの国際機関の1600人余りの代表が会合に参加し、フォーラムは5種類、76項目、279の具体的な成果を出し、これらの成果はすでにすべて実行に移された。2019年4月、第2回「一带一路」国際協力サミットフォーラムが引き続き北京で開催された。「一带一路」国際協力サミットフォーラムはすでに各参加国・国際機関が交流を深め、相互信頼を増進し、交際を密接にする重要なプラットフォームになっている。2018年11月、第1回中国国際輸入博覧会が成功裏に開催され、172の国、地域

と国際機関が参加し、3600社余りの外国企業が出展し、政界、実業界、大学・研究機構からの4500人余りの賓客が虹橋国際経済フォーラムで対話・交流を行い、「虹橋の声」を発表した。中国はまたシルクロード国際博覧会および中国東西部協力・投資貿易商談会、中国・ASEAN博覧会、中国・ユーラシア博覧会、中国・アラブ諸国博覧会、中国・南アジア博覧会、中国・北東アジア博覧会、中国西部国際博覧会などの大型の展覧会を開き、すべて中国と沿線諸国が共同協議し、協力する重要なプラットフォームとなった。

——共同協議における多国間メカニズムの役割を強化する。「一帯一路」の共同建設は平和と発展の時代の流れに順応し、平等・協議、開放・包容を堅持し、沿線諸国が既存の国際メカニズムで互惠協力を展開するのを促進する。中国は

G20、APEC、SCO、アジア欧州会合（ASEM）、アジア協力対話（ACD）、アジア相互協力信頼醸成措置会議（CICA）、中国・ASEAN（10+1）、瀾滄江・メコン川協力メカニズム、大メコン圏地域（GMS）経済協力、大図們江イニシアチブ（GTI）、中央アジア地域経済協力、中国・アフリカ協力フォーラム、中国・アラブ諸国協力フォーラム、中国・CELACフォーラム、中国・中東欧諸国協力（16+1）メカニズム、中国・太平洋島嶼国経済開発協力フォーラム、世界経済フォーラム（WEF）、ボアオ・アジアフォーラム（BFA）など既存の多国間協力メカニズムを十分に利用し、相互尊重、相互信頼に基づき、各国と「一帯一路」共同建設の実質的なマッチングと協力を積極的に展開している。

——「トラック・ツウ」対話メカニズムを確

立する。中国と沿線諸国は政党、議会、シンクタンク、地方、民間、商工業界、メディア、大学などの「トラック・ツウ」のチャンネルによって、「一带一路」共同建設をめぐる、さまざまな意思疎通、対話、交流、協力を展開している。中国は中国共産党と世界の政党のハイレベル対話会を開催し、「一带一路」共同建設の関連議題について深く突っ込んだ意見交換を行った。中国と関係諸国は前後して「一带一路」シンクタンク協力連盟、シルクロード国際シンクタンクネットワーク、大学シンクタンク連盟などを立ち上げた。英国、日本、韓国、シンガポール、カザフスタンなどの国はすべて「一带一路」の研究機構を設立し、さまざまな形式のフォーラムやシンポジウムを開催している。国内外の大学が協力して「一带一路」研究センター、協力発展学院、共同研修センター

などを設立し、「一帯一路」の共同建設のためにグローバル人材を育成している。国内外のメディアは交流と協力を強化し、メディアフォーラムの開催、映画の共同撮影、共同取材などの形式を通じて、「一帯一路」共同建設の国際的な広報力を高め、「一帯一路」共同建設関連の情報を国際社会に即時に知らせている。

## (二) 共同建設：手を携えて調和のとれたふるさとをつくり上げる

共同建設とは、各方面がすべて平等な参加者、建設者、貢献者であり、また責任とリスクの共同分担者でもあるということだ。

——共同建設・協力の融資プラットフォームを構築する。中国が発起したアジアインフラ投資銀行（AIIB）は2016年の開業以降、世界の多国間開発システムの中でますます重要な役割を発揮

しており、国際社会の広範な信頼と承認を得ている。2018 年末時点で、AIIB はすでに最初の 57 の創始メンバーから、各大陸にあまねく分布する 93 のメンバーにまで発展した。累計 75 億ドルの借款を批准し、その他 400 億ドル近くの投資を推し進めており、すでに批准された 35 項目はインドネシア、パキスタン、タジキスタン、アゼルバイジャン、オマーン、トルコ、エジプトなどの 13 カ国をカバーしている。AIIB はその趣旨と使命を履行すると同時に、他の多国間開発銀行と共に、「一帯一路」共同建設に力を貸す重要な多国間プラットフォームの一つになっている。2014 年 11 月、中国政府は 400 億ドルを出資してシルクロード基金を設立することを宣言し、2017 年 5 月には、シルクロード基金に 1000 億元増資すると宣言した。2018 年末時点で、シル

クロード基金の合意された投資金額は約 110 億ドルで、実際の出資金額は約 77 億ドルに達し、また 20 億ドルを出資して中国・カザフスタン生産能力協力基金を設立した。2017 年、中国は「一帯一路」PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）活動メカニズムを確立し、国連欧州経済委員会と協力了解覚書に調印し、共同で PPP モデルを推進して、「一帯一路」建設の協力プロジェクトにより良く運用している。

——**第三国市場協力を積極的に展開する。**「一帯一路」共同建設は、開放的・包容的かつ実務的・効果的な第三国市場協力を推進し、中国企業と各国の企業の優位の相互補完を促進し、「1+1+1>3」のウインウインを実現することに力を注いでいる。2018 年、第 1 回中日第三国市場協力フォーラムと中仏第三国市場協力指導委員会第 2 回会

議が成功裏に開催された。英国のヒンクリー・ポイント原子力発電所などの一連の協力プロジェクトは順調に実行され、中国中車（CRRC）とドイツのシーメンスはすでにくつかりの重点プロジェクトにおける第三国での協力に関して共通認識に達している。

### （三） 共同享受：あらゆる参加者に真の恩恵を受けさせる

共同享受とはつまり提携側の利益と関心事に配慮し、利益の合致点と協力の最大公約数を求め、協力の成果で双方を幸福にし、各方面に恩恵をもたらすことである。「一帯一路」共同建設は「あなたが敗者、私が勝者」あるいは「あなたが勝者、私が敗者」のゼロサムゲームではなく、ウインウインのことである。

——発展の成果を沿線諸国にもたらす。世界経

済の成長に対する中国経済の寄与率は長年 30% 前後を保っている。近年、中国の輸入需要は急速に拡大し、国際貿易の繁栄に対してますます大きな貢献をすると同時に、中国に輸出する沿線諸国の経済の成長をけん引している。中国の商品とサービス貿易の年間輸入額は共に世界の 1 割前後を占め、2018 年、中国の商品貿易輸入額は 14 兆 1000 万元で、前年同期比 12.9% 増えた。2018 年、中国の対外直接投資は 1298 億 3000 万ドルで、前年同期比 4.2% 増え、沿線諸国に対する直接投資の比率は年々増えている。「一帯一路」共同建設の協力の枠組みの下で、中国はアジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの地域の広範な発展途上国がインフラ整備に力を入れるのを支援し、世界経済発展のボーナスが絶えることなくそれらの発展途上国へ送り込まれている。世界銀

行の研究チームの数量化貿易モデルの結果は、「一帯一路」共同建設が「発展途上の東アジアと太平洋国家」の国内総生産（GDP）を平均 2.6% から 3.9% 増加させることを示している。<sup>3</sup>

——沿線諸国の民生を改善する。中国は貧困の削減・脱却、農業、教育、衛生、環境保護などの分野の民生援助を沿線諸国に提供することを「一帯一路」共同建設の範疇に組み入れている。中国は中国・アフリカ貧困削減利民協力計画、東アジア貧困削減協力モデルなどの活動を展開している。メコン川の緊急給水を積極的に実施し、川沿い諸国の干ばつ災害対応を援助し、タイ、ミャンマーなどの国に洪水防止技術の援助を提供する。

---

3 François de Soyres. The Growth and Welfare Effects of the Belt and Road Initiative on East Asia Pacific Countries. WORLD BANK GROUP, October 2018 Number 4.

中国と世界保健機関（WHO）は「一帯一路」医療衛生分野協力に関する了解覚書に調印し、中国・アフリカ公共衛生協力計画、中国・ASEAN 公共衛生人材養成百人計画などのプロジェクトを実施する。中国は沿線諸国に協力して累計数千人の公共衛生管理と疾病予防・抑制要員を養成し、関係国の累計 5200 人余りの白内障患者のために視力回復手術を無料で実施した。中国は毎年周辺諸国の 3 万人近くの患者のために優れた医療サービスを提供している。中国中医薬チームは前後してカンボジア、コモロ、トーゴ、サントメ・プリンシペ、パプアニューギニアなどの国でマラリア急速撲滅プランを実施した。

——科学技術革新の成果の沿線諸国への移転を促進する。中国は沿線諸国と 46 の科学技術協力協定に調印し、前後して中国・ASEAN、中国・

南アジアなどの科学技術パートナー計画をスタートさせ、ASEAN、南アジア、アラブ諸国、中央アジア、中東欧と五つの地域技術移転プラットフォームを共同で建設し、「一带一路」国際科学組織連盟の設立を発起した。沿線諸国の青年科学者の中国での短期科学研究活動および沿線諸国の科学技術と管理要員の研修などの方式を通じて、多層的で多元的な科学技術の人的・文化的交流のメカニズムを形成した。2018年、中国は沿線諸国の青年科学者500人が中国に来て科学研究を行うのを受け入れ、延べ1200人以上の科学技術管理要員を養成した。中国は宇宙分野における国際協力を積極的に展開し、中国の「北斗」ナビゲーションシステム、衛星通信システムと衛星気象リモートセンシング技術が沿線諸国の建設にサービスを提供するのを推進している。

——グリーン発展を推進する。中国は『気候変動抑制に関する多国間の国際的な協定（パリ協定）』を堅持し、グリーンの生態理念を「一帯一路」共同建設のイニシアチブに首尾一貫させることを積極的に提唱し、また推進している。中国と国連環境計画（UNEP）はグリーンな「一帯一路」を建設する了解覚書に調印し、30余りの沿線国と生態環境保護の協力合意書に調印した。グリーンなシルクロードを建設することはすでに国連の持続可能な開発のための2030アジェンダを実現する重要なルートになっており、100余りの関係国・地域の協力パートナーが共に「一帯一路」グリーン発展国際連盟を設立した。中国は2016年にG20議長国を担当した際に、初めてグリーン金融の議題をG20の議事日程に取り入れ、グリーン金融研究グループを発足し、『G20グリーン

金融総合報告』を公表した。中国は「グリーン・シルクロード使者計画」を積極的に実施し、すでに沿線諸国の延べ 2000 人の研修を行った。中国は『グリーンな「一带一路」建設の推進についての指導意見』や『「一带一路」生態環境保護協力計画』などの文書を公表し、「一带一路」共同建設のグリーン責任とグリーン基準の実行を推進している。

#### (四) ビジョン：人類運命共同体を構築する

「一带一路」共同建設は人類が素晴らしい未来を追求する共通の願望に順応している。国際社会は「一带一路」共同建設のイニシアチブが主張する人類運命共同体を構築するという理念にますます賛同するようになっており、人類運命共同体の構築は現代の世界経済の発展の需要と人類の文明進歩の大きな方向に適っている。「一带一路」共

同建設のイニシアチブは人類運命共同体を構築する重要な実践のプラットフォームになっている。

——中国に源を発したものだがそれにも増して世界に属するものである。「一帯一路」共同建設は地域の違い、発展段階の違い、文明の違いを乗り越えた、開放的かつ包容的なプラットフォームであり、各方面が共につくり出した世界の公共財である。「一帯一路」共同建設の目標は人類の共通の未来を指向し、最大限の非競合性と非排除性を堅持し、全体のガバナンス体系の公正性、平等性、開放性、包容性に対する国際社会の追求に順応し、中国が今日の世界のために提供する重要な公共財である。グテーレス国連事務総長は次のように指摘した。「一帯一路」共同建設のイニシアチブは国連のミレニアム開発目標のマクロ目標と同じであり、共に世界に提供された公共財であ

る。「一帯一路」共同建設は貿易取引と人的交流を促進するだけでなく、各国間の理解を増進し、文化的障害を減らし、最終的に平和、調和と繁栄を実現することができる。

——グローバルガバナンス体系の変革に中国プランを提供する。今日の世界は成長の原動力が不足し、ガバナンス体系が立ち遅れ、発展がアンバランスであるなどの試練に直面している。「一帯一路」共同建設は開放・包容、共同发展という指向が鮮明であり、社会制度と文化の差異を乗り越え、文明の多様性を尊重し、多元的な文化の共存を堅持し、異なる経済発展レベルの国家の優位の相互補完と互惠・ウインウインを強調し、発展条件の改善、発展機会の創出、発展原動力の強化、発展成果の共有に力を入れ、グローバルガバナンス、グローバル安全、グローバル発展の連動の実

現を推進し、長期にわたる単一ガバナンスの効果が明らかでないという悩みの解決に力を入れる。

——沿線諸国の前途と運命をしっかりと結びつける。人類には一つの地球しかなく、各国は一つの世界に共存している。人類が共に直面している各種の試練に対応し、世界の平和・繁栄・発展の素晴らしい未来を追求するために、世界各国は苦難を共にし、栄辱を分かち合い、恒久平和、普遍的な安全、共同繁栄、開放・包容、清潔で美しい世界を構築しなければならない。人類運命共同体の理念には利益の共存、感情の共鳴、価値の共通認識、責任の分担、発展のウインウインなどの内包が溶け込んでいる。「一帯一路」共同建設は互いの助け合いを主張し、平等を重んじ、感情を大切にし、小異を残して大同を求めること、寛容・相互理解、意思疎通・対話、平等な交際を堅持し、

他人の発展を自らのチャンスと見なし、中国と沿線諸国ないし世界の発展のチャンスの相互結合を推し進め、発展の成果が協力者双方や各方面に恩恵をもたらすことを実現する。中国は40年の改革開放の中で多くの参考に値する経験を積んだ。中国はイデオロギーと発展モデルを輸出する気はないが、「一帯一路」共同建設を通じて自らの発展の経験を他の国と分かち合い、沿線諸国と共に素晴らしい未来を建設したいと願っている。

### 三、展望

今日の世界はまさに大発展、大変革、大調整の時代にあり、平和、発展、協力は依然として時代の潮流である。未来を展望すると、「一带一路」共同建設は多くの問題と試練に直面しているが、それにも増してかつてないチャンスと将来性に満ちている。これは多方面に関わるイニシアチブであり、心を合わせて協力する必要がある。これは未来に関わるイニシアチブであり、たゆまぬ努力が必要だ。これは人類に恩恵をもたらすイニシアチブであり、心を込めて見守るべきだ。時間の推移と各方面の共同努力の下、「一带一路」共同建設は必ず深く着実に進み、穏やかに遠くまで行き、

平和の道、繁栄の道、開放の道、グリーンな道、革新の道、文明の道、廉潔の道となり、経済のグローバル化がより開放的、包容的で、広く恩恵をもたらし、バランスがとれた、ウインウインの方向へと発展するのを推進するとわれわれは信じている。

### (一) 平和の道

古代シルクロードは、平和な時代には盛んになり、戦争の時代には衰えていた。「一带一路」共同建設は平和で平穏な環境と切り離せない。「一带一路」共同建設のイニシアチブは相互尊重、公平・正義、協力・ウインウインという新型国際関係の構築を主張し、対話するが対立しない、パートナーにはなるが同盟は結ばないというパートナーシップを打ち立てるものである。各国は互いの主権、尊厳、領土保全を尊重し、互いの発展の道

と社会制度を尊重し、互いの核心的利益と重要な関心事を尊重すべきだ。

平和と安全は「一帯一路」共同建設を推進するための基本的な前提であり保証である。各国は共同、総合、協力、持続可能という安全保障観を確立し、共同建設、共同享受の安全保障の枠組みをつくり上げる必要がある。衝突を解消することに力を入れ、政治的解決を堅持する必要がある。仲裁調停に力を入れ、正道・正義を堅持しなければならない。反テロリズムの推進に力を入れ、表面に現れた問題と根本的な問題を共に解決し、貧困・立ち遅れと社会的不公平を取り除く必要がある。各国は冷戦思考、ゼロサムゲーム、強権政治を捨て、テロリズム、分離主義、過激主義に断固として反対しなければならない。国家主権、領土保全、安全・安定など重要な核心的利益に関わる

問題において、互いに支持し合わなければならない。対話による紛争解決、協議による不一致の解消を堅持し、協力と相互信頼を強化し、相互の猜疑心を減らす。各国はサイバーセキュリティー対策、越境犯罪の取り締り、麻薬犯罪の取り締り、「三つの勢力」（テロリスト、分離主義、宗教的過激主義）の取り締り、合同法執行、安全保障・防衛などの分野における協力を強化し、地域経済の発展と人々の安穏な暮らしに良い環境をつくり出さなければならない。

中国は一貫して地域と世界の平和を守り、共同发展を促進する揺るぎない力である。中国は平和的发展の道を堅持し、独立自主の平和外交政策を固く守り通し、各国の人々が自ら選んだ发展の道とその遂行する内外政策を尊重し、各国の内政に決して干渉せず、自らの意思を相手に押し付け

ることなく、自国の利益を他国の利益の上に君臨させない。「一帯一路」共同建設のスムーズな推進を保証するため、中国は沿線諸国と共に紛争解決メカニズム、安全リスクの早期警戒・対策メカニズムを構築し、緊急処置メカニズムを制定することを望んでいる。ひとたび紛争が発生しても、当事者が対抗ではなく対話で、席に着き互いの利益・関心事について意思疎通・交流を行うことができれば、「一帯一路」共同建設の良好な発展環境をつくり出すだけでなく、各国が互いに核心的利益を尊重し、平和的に不一致を解決する調和のとれた世界をつくるのを共に推進することにもなる。

## (二) 繁栄の道

発展はあらゆる課題を解決するマスターキーである。「一帯一路」共同建設は発展というこの

根本的な問題に焦点を合わせ、各国の発展の潜在力を解き放ち、経済の融合、発展の連動、成果の共有を実現する。「一帯一路」共同建設は世界の多極化、経済のグローバル化、文化の多様化、社会の情報化という潮流に順応し、世界の自由貿易体制と開放型の世界経済の擁護に注力する。

沿線諸国は市場規模と資源の賦存量においてそれぞれ優位性があり、相互補完性が強く、潜在力が巨大で、協力の将来性が大きい。各国はそれぞれの利益や関心事に十分に配慮した上で、共通認識を凝集し、共通認識を行動に移し、戦略の連携、計画のマッチング、プラットフォームの統合、プロジェクトのドッキングという考え方に基づいて、より多くの目に見える成果を挙げ、優位性の相互補完を実現し、共同繁栄・発展を促進しなければならない。

「一帯一路」共同建設は引き続きコネクティビティーを重点とし、要となる通路、交通結節点、プロジェクトに焦点を合わせ、道路、鉄道、港湾、航空、宇宙、石油・天然ガスパイプライン、電力、ネット通信などの分野における協力を促進し、各国と共に陸、海、空、インターネットの四位一体の相互連結を推進することに力を注ぐ。中国は各国と共に「一帯一路」空間情報回廊を構築する。沿線諸国と経済貿易分野で互惠・ウインウインを強化し、二国・多国間の投資・貿易規模を拡大する。産業協力を深く突っ込んで展開し、経済貿易と産業協力パークを共同でうまく行う。新産業革命の発展の新たなチャンスをつかみ、新たなエネルギーと業態を育成し、経済成長の活力を保つ。第2回「一帯一路」国際協力サミットフォーラム期間中に、中国は関係国と「生産能力お

よび投資協力重点プロジェクトに関するリスト」に調印する。安定した、持続可能で、リスクコントロールが可能な金融サービスシステムを構築し、投資と融資モデルを刷新し、PPPモデルを押し広め、多元化した融資システムと多層的な資本市場を構築し、ファイナンシャル・インクルージョンを発展させ、金融サービスネットワークを整備する。

### (三) 開放の道

開放は進歩をもたらし、閉鎖は立ち遅れを招く。一国にとって開放は幼虫が脱皮してチョウになるように、一時の陣痛に耐えねばならないが、再び生まれ変わることができる。「一帯一路」共同建設は開放を指向し経済の成長とバランスのとれた発展という問題を努力して解決する。

「一帯一路」共同建設は広く普遍的な恩恵・ウ

インウインを堅持し、開放型の協力プラットフォームを構築し、開放型の世界経済の形成を推進する。「一帯一路」共同建設は平和的発展、経済協力の呼びかけであって、地縁政治同盟や軍事同盟を謀ろうとするものではない。開放・包容、共同发展の歩みであって、門戸を閉ざして小グループあるいは「中国クラブ」をつくろうとするのではない。イデオロギーで線を引いたり、ゼロサムゲームをするつもりもない。どのような政治体制、地域環境、発展段階、文化背景にあっても、皆「一帯一路」の仲間に加わることができ、共同協議、共同建設、共同享受を行い、協力・ウインウインを実現することができる。

中国はルールに基づき、開放、透明、包容、非差別的な多国間貿易体制を擁護、強化し、貿易と投資の自由化・円滑化を促進し、沿線諸国と共に

高い基準の自由貿易区を建設し、経済のグローバル化の健全な発展を推進する。同時に、「一帯一路」共同建設は発展のアンバランス、ガバナンスの苦境、情報格差、配分の格差などの問題の解決にも力を入れ、世界各国により平等な発展の機会を与え、発展の成果を各国の人々に共有させる。

「一帯一路」共同建設の過程において、中国はますます開放していき、世界各国に共同発展の新しい機会をもたらし、各国と共に自らの国情にふさわしい開放型経済を積極的に発展させ、人類運命共同体の構築という目標に向かって手を携えて常にまい進することを願っている。

#### (四) グリーンな道

「一帯一路」共同建設のイニシアチブはグリーン発展の理念を実践し、グリーン、低炭素、循環型、持続可能な生産様式と生活様式を提唱し、エ

コロジの面での協力の強化に力を尽くし、生態環境のリスクを防止し、沿線諸国の政府、企業、公衆のグリーンに対する共通認識および相互理解・支援を強化し、共に「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を実現させる。

沿線諸国は環境にやさしいことを堅持し、エコ文明とグリーン発展の理念を全面的に経済貿易協力に融合させるよう努力し、生態環境保護と経済貿易協力が互いに補完するグリーンな発展の枠組みをつくり上げる必要がある。各国は生産が発展し、生活が豊かで、生態が良好な文明的発展の道を絶えず切り開いていく必要がある。省エネ・排出削減に関する協力を行い、共同で気候変動に対応する。生態環境保護協力支援政策を制定、実施し、生態系の保護と回復を強化する。グリーン金融の発展を模索し、環境保護、生態系管理を現

代金融システムに有機的に融合させる。

中国は沿線諸国と生態環境保護の協力を行うことを希望し、より多くの国とグリーンシルクロードの建設に関する協力文書に調印することに努め、「一带一路」グリーン発展国際連盟を拡大し、持続可能な「一带一路」都市連盟を構築する。一連のグリーン産業協力モデル基地、グリーン技術交流・移転基地、技術モデル普及基地、科学技術パークなどグローバルなグリーン産業協力プラットフォームを構築し、「一带一路」グリーンサプライチェーンプラットフォームを築き、国家公園の建設協力・交流を行い、沿線諸国と共に人類共通のふるさとをしっかりと守る。

### （五）革新の道

革新は発展を推進する重要な力である。「一带一路」共同建設には革新に原動力を求めることが

必要だ。この5年余りの間、中国は沿線諸国と共に革新環境を最適化し、革新資源を集め、科学技術革新の協力を強化し、引き続き科学技術と産業、科学技術と金融の深い融合を促進している。

21世紀に入って以降、世界の科学技術革新は空前の目覚しさを示し、新たな科学技術革命と産業変革が世界の革新の版図を塗り替え、世界経済の構造を再構築している。「一带一路」共同建設は工業化の初・中級段階にある大部分の国々が平等かつ合理的にグローバルな産業チェーンとバリューチェーンに参加するように新たな契機を提供している。さまざまな要素と資源が沿線諸国間で共有、流動、再構築されるのに伴い、各国はそれぞれの比較的優位性を生かして最先端技術の応用研究、ハイテク製品の研究開発と実用化に焦点を合わせ、革新駆動型発展を絶えず推進する。「一

「帯一路」共同建設は沿線諸国が革新的発展を遂げる新たなプラットフォームになり、沿線諸国が飛躍的な発展を実現するための駆動力になり、世界経済成長の新たなエネルギーになる。中国と沿線諸国の連動した発展、試練への協力対応は、各国、各階層、異なる集団の人々に開放型の世界経済の発展の中で経済のグローバル化の成果をすでに共有させ、これからもそうさせる。

デジタル経済は農業経済、工業経済に続く主要な経済形態である。今日の世界はより広範囲、より深層的な科学技術革命と産業変革を経験しており、現代情報技術が絶えず大きく進展し、デジタル経済が盛んに発展し、各国の利益がますます緊密につながるようになっている。「帯一路」共同建設は革新駆動型発展を堅持し、各方面と、人工知能（AI）、ナノテクノロジー、量子コン

コンピューターなどの先端分野における協力を強化し、ビッグデータ、クラウドコンピューティング、スマートシティー建設を推進し、21世紀のデジタル・シルクロードをつなげる。沿線諸国の青年科学者の中国での短期間の科学技術研究従事および科学技術者、管理要員の研修などの方式を通して、多層的かつ多様な科学技術・人的・文化的交流メカニズムを形成する。共同で国家レベルの共同科学研究プラットフォームを構築することによって、長期的で安定した科学技術革新協力メカニズムを深化させ、沿線諸国の科学技術革新能力を高める。「一帯一路」科学技術移転協力ネットワークを構築し、地域革新の一体化を加速する。知的財産権は革新駆動型発展の基本的保障であり、沿線諸国は知的財産権を尊重し、より効果的に保護、使用し、高水準の知的財産権保護システムを

構築すべきだ。

## (六) 文明の道

「一帯一路」共同建設は文明間の交流によって文明間の隔たりを乗り越え、文明間の相互参照によって文明間の衝突を乗り越え、文明の共存によって文明間の差別を乗り越えることを推進し、各国の相互理解、相互尊重、相互信頼を推し進める。

古代シルクロードは各国各民族の交流の扉を開き、人類文明進歩の歴史を記した。「一帯一路」共同建設の深い文明の内容と包摂的な文化理念は、沿線諸国が同じ目標に向かって歩み寄り、互いに学び参考にするためのプラットフォームを提供し、異なる国、異なる文化、異なる歴史背景の人々の緊密な交流を促進し、民族、文化、制度、宗教を超えさせ、人類に新たな高みで感応、融合、疎通を行わせ、人類運命共同体の構築を共に推進

させる。「一帯一路」共同建設は沿線諸国が教育、科学技術、文化、医療・衛生、スポーツ、メディア、観光などの分野で幅広い協力を行うのを推進し、政党、青年、民間組織、シンクタンク、女性、地方の交流・連携を同時に推進し、和して同せず、多元的で一体化した文明の共栄発展の態勢をほぼ形成している。

中国は沿線諸国および関係国際機関と共に多層的な人的・文化的協力メカニズムの構築を推進し、より多くの協力プラットフォームを組み立て、より多くの協力のルートを切り開くことを望んでいる。教育における協力を推進し、留学生の相互派遣規模を拡大し、学校の共同運営レベルを向上させる。「一帯一路」国際シンクタンク協力委員会と「一帯一路」報道協力連盟を設立する。引き続き歴史・文化遺産の保護、文化財の対外援助協

力、合同考古学協力を行い、博物館の交流・協力を推進し、共同でシルクロードの特色ある観光商品を開発する。政党、民間組織間の交流を強化し、女性、青年などのグループの交流を密接にし、包容的発展を促進する。第2回「一带一路」国際協力サミットフォーラムの期間中に、中国の関係部門は国連児童基金（UNICEF）と共同で「子どもを大事にし、発展を共有し、持続可能な開発目標の実現を促進する」という協力イニシアチブを発起する。中国の民間組織は「シルクロード一家」行動を始め、沿線諸国の民間組織が民生分野で共同で協力を行うのを推進する。中国は引き続き沿線の発展途上国に力の及ぶ限りの支援と援助を提供する。

### （七）廉潔な道

廉潔は「一带一路」共同建設における道德の「ポ

トムライン」であり法律の「レッドライン」だ。沿線諸国は廉潔で高効率の現代的なビジネス環境をつくり出すことに協力し、「一帯一路」の建設プロジェクトに対する監督・管理とリスク対策を強化し、規範的で透明性のある共有資源取引のプロセスを構築する。プロジェクトの入札募集、施工・建設、運営・管理などの過程で、関連の法律・法規を厳格に順守し、レントシーキングを防止し、好ましい市場秩序を構築する。各国は腐敗撲滅に関する国際交流・協力を強化し、『国連腐敗防止条約』などの国際公約と関係二国間条約に基づき司法・法執行協力を行い、二国間犯罪人引渡し条約、司法協力協定の締結と履行を推進し、より緊密かつ円滑な司法・法執行協力ネットワークを構築する。各国は企業の自律意識の強化を推進し、コンプライアンス管理システムを構築し、廉潔文

化を育成し、廉潔リスクを防止し、商業賄賂を断固として排斥する。政府、企業、国際社会は共に努力し、効果的な対策を取り、腐敗分子の入国拒否、不正資金の回収などに関する協力メカニズムを構築し、一致協力して腐敗の鎖を断ち切り、腐敗撲滅の防衛線を築く必要がある。

中国は各国と共に腐敗撲滅法治体系とメカニズムを整備し、ビジネス環境を絶えず改善し、引き続き商業賄賂を取り締る。沿線諸国と腐敗撲滅法律・法規のドッキングを強化し、腐敗撲滅に関する実務協力を深化させる。「海外進出」した企業に対する廉潔教育・研修を強化し、企業コンプライアンスを強化する。中国は「一帯一路」を廉潔な道につくり上げるように、沿線国と共に努力することを願っている。

世界の潮流は勢いよく進んでいる。「一帯一路」共同建設のイニシアチブは歴史のすう勢に順応し、それが体現している価値観と発展理念は人類運命共同体を構築するという世界全体の内在的要求に適合し、発展のチャンスを共有し素晴らしい生活をつくるという沿線諸国の人々の強い願望と切実な期待にも適合している。疑うべくもなく、時間が推移するにつれて、「一帯一路」共同建設はさらに強い生命力と創造力をはっきりと示す。構想・配置の「大写意」と入念に描く「細密画」によって、「一帯一路」共同建設は長く努力し続けることで、高品質、高基準、高水準に向かって発展し、恒久平和の世界を構築し、普遍的に安全な世界を構築し、共同繁栄の世界を構築し、開放、包容の世界を構築し、清潔で美しい世界を構築し、最終的に人類運命共同体という美しいビジョンの構築を実現するためにより大きな貢献をする。



## 图书在版编目(CIP)数据

共建“一带一路”倡议：进展、贡献与展望：日汉对照 / 推进

“一带一路”建设工作领导小组办公室编著. — 北京：外文出版社, 2019.3

ISBN 978-7-119-11977-9

I. ①共… II. ①推… III. ① “一带一路” — 国际合作 — 研究 — 日、汉  
IV. ①F125

中国版本图书馆CIP数据核字(2019)第057476号

## 共建“一带一路”倡议： 进展、贡献与展望

推进“一带一路”建设工作领导小组办公室

\*

外文出版社有限责任公司出版

(中国北京百万庄大街24号)

邮政编码 100037

北京京鲁数码快印有限责任公司印刷

中国国际图书贸易集团有限公司发行

(中国北京车公庄西路35号)

北京邮政信箱第399号 邮政编码 100044

2019年(32开)第1版

2019年第1版第1次印刷

(日汉)

ISBN 978-7-119-11977-9